



# 郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2026年1月7日

1月号

校長 安倍 武雄

## 学校教育目標 ~支えあう・聴きあう・学びあう~

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

## 2026年もどうぞよろしくお願いいいたします

保護者の皆様、地域の皆様、令和8（2026）年の新しい年を迎えたこと、お慶び申し上げます。職員一同、子どもたちはもちろんのこと浜之郷小学校にかかる全てのご家庭、地域の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。2026年も皆様にとって良い年になりますように。



## ダイバーシティとか、インクルーシブとかの前に

ダイバーシティとか、インクルーシブとかカタカナの新しい言葉がどんどん身の周りで増えてきて、ときに焦りを覚えます。

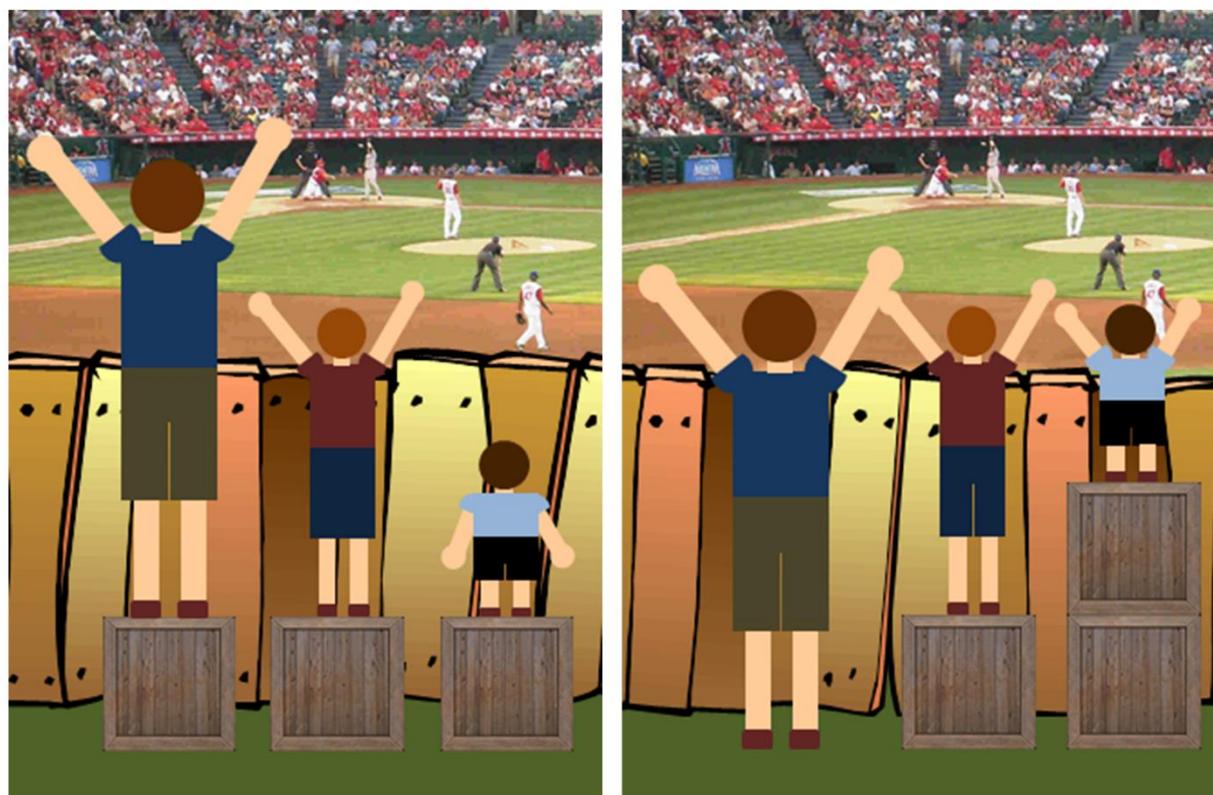
調べてみると、ダイバーシティとは「多様性」を意味し、年齢、性別、国籍、人種、宗教、障害の有無、価値観、経験など、さまざまな違いを持つ人々が組織や社会の中で共存し、その違いを尊重し、能力を最大限に活かせる状態」、また、インクルーシブとは、「すべてを含んでいる、包括的な」という意味で、障害の有無、性別、国籍、年齢などに関わらず、多様な人々を分け隔てなく受け入れ、尊重し、共に共生する社会や環境を目指す考え方」とGoogleのAIが教えてくれます。多様な在り方（=違い）を認めた上で互いを尊重し、得意を生かしながら共に生きていく社会をめざすという意味では、こういう考え方には異論をはさむ余地はありません。かつての差別の歴史を考えれば当然です。本校も県からのインクルーシブ教育校内支援体制整備事業の指定校となっています。浜之郷小学校は、こうした教育を進めていく立場にあります。

そんな中で私が一番懸念しているのは、「組織や社会の中で共存」の部分です。多様性が高い場面では、それだけ互いに強い個性をもっているなあと感じる人が集まっています。それらの人々が自分の考えばかりを主張するならば、決して「組織や社会の中で共存」することはできず、やがては対立の構図ができあがってしまうでしょう。似た者同士の集団ができ、強弱がよりはっきりしていくでしょう。それでは「能力を最大限に活かせる状態」からはほど遠い、声が大きい人、圧の強い人が勝つことになってしまうのではないかと心配しているのです。

だとしたら、大切なのは、自分の所属する組織や社会が「より幸せになるには」と考えられる人であることです。誰かを犠牲にして自分が幸せになるのではなく、私も、あなたも、みんなも幸せになるには、何をするべきかと考えられる人であることです。～支えあう・聴きあう・学びあう～子は、まさにそんな子だと思いますし、そんな子を育てなければと年頭に強く思っています。本年も本校の教育活動へのご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいいたします。

12月までは我慢ができる寒さでしたが、これからはもっともっと寒くなることでしょう。子どもたちのあいさつもしほみがちです。今一度、あいさつの意味を話し合ってみてください。もう一つのお願いです。温かい手袋、帽子をご用意ください。フードを深くかぶり、ポケットに手を突っ込んで歩いている子どもたちを数多く見かけます。視界が狭まり、万が一転んだ際に手が出ないなど、子どもたちの様子を見ていて心配になります。どうぞ、ご協力ください。

左のイラストは Craig Froehle というアメリカの方が、平等と公平の違いについて説明するためにデザインしたものです。



平等 (equality) と公正 (equity)